

FCHD

# 生産性向上へ自動化

## 事業会社を再編成



福島社長

FCHDホールディングスは、自動化・高度化システムの構築を進めており、時間当たり生産性5%以上、付加価値比率10%以上の向上を目指す。また、今期(2018年6月期)中にグループ事業会社を

再編成する。5日に福岡市で開いた18年6月期第2四半期決算会社説明会で福島宏治社長が説明した。

時間当たり生産性向上の施策として、業務の標準化や労働時間の可視化に加え、RPA(ロボットテンプレート)による定型業務の自動化やAI(人工知能)による暗黙知の一部形式知化、各種ビッグデータの収集・解析技術の高

度化を進めている。福島社長は、「生産性向上を推進することで余力が生まれる。それを、受注件数の増加につなげたい」と話した。

合わせて、労働時間の縮減を最重要課題に位置付けた働き方改革も進めている。フレックスタイム制や在宅勤務制度を試行しており、対前期比10~20%の縮減を達成した。土木のほか、環境、情報系な

どの幅広い人材採用や女性の採用にも積極的に取り組んでいる。

事業会社の再編成は、研究開発と人材育成を担うHMBを技術研究所化し、発展的に統合する。福山コンサルタントを中心とした中核事業の建設コンサルタント分野も手薄な中部や北陸などの地域、河川・砂防、海岸・海洋、都市計画・地方計画などの分野を強化する。福島社長は、「現状は事業分野が似ていてリスクの分散ができていない。M&A(企業の合併・買収)による新ビジネス領域と連携して企業の継続性を高めたい」と説明した。

18年6月期第2四半期の実績は、受注高が前年同期比1.4%減の66億8400万円、生産高は4.1%減の35億6700万円、売上高は28.4%増の12億6700万円となり、期首計画どおりに推移している。通期の売上高は、前期比4200万円増の69億円、純利益は1億3600万円減の3億円を見込み、期首計画から変更はない。減益予想は積極的な投資計画のためで、7億円の営業キャッシュフローとともに、外部調達を活用することで10億円の投資予算を確保する。内訳は、新領域投資(M&A)に7億円、生産性向上と研究開発投資にそれぞれ1億5000万円を充てる。